

ポブベックのやさしい投資信託

第12回 債券に投資するファンドのリスク その2

(6-B)債券に投資するファンドのリスク

債券（短期金融商品を含む）に投資するファンドといっても様々な種類があります。そしてそのファンドがどんな債券に投資するのか、どの程度のパフォーマンスを目指して運用するのかによって、そのリスクは大きく違うのです。

例えば、MMFと海外の債券に投資するファンドを比較してみましょう。海外の債券に投資するファンドは、少なくとも為替の変動によって基準価額が大きく変動するでしょう。しかし、短期の金融商品に投資するMMFが、海外の債券に投資するファンドと同じような大きな基準価額の動きをするはずがありません。つまり、MMFのリスクと海外の債券に投資するファンドのリスクは大きく違うのです。

また、昨年5月14日に投資信託協会から発表された「制度変更」に伴って、同じファンド名のファンドであっても、今までとはリスクの大きさが違ってくる可能性もあります。そういった点に注意しながら、債券に投資するファンドのリスクについてまとめてみましょう。今回はMMFについてです。

(a)MMF

MMFの運用内容

MMFは国内の公社債を中心に、コール、CD（譲渡性預金）やCP（主に優良企業が投資家から資金調達するために発行した約束手形）など短期の金融商品で運用する追加型公社債投資信託です。株式は組入れられていませんから、株式の変動によって元本が割れるようなことはありません。

コール、CD、CP、それぞれの金利がどの程度の水準なのかは、日経新聞の市況欄に毎日掲載されています。これを見ていると、今後MMFの利回りが上昇傾向にあるのか、それとも下降傾向にあるのかが、臆気ながら分かるようになります。また短

期金利の動向は、経済の動向を知る上でも非常に重要な指標ですから、出来ることなら、毎日チェックすると良いでしょう。

金利変動のリスク

前回の投信講座で、「金利が上がれば債券の価格は下落、金利が下がれば債券の価格は上昇」と書きました。しかし、MMFの場合、残存期間が1年以内の債券やCD、CPは時価を基準価額に反映させていません。ですから、金利の動きによって、これらの債券の価格が変動し、基準価額が元本を割ってしまうという心配もないのです。

では、どのようなリスクがあるのでしょうか？

- (1) デフォルトのリスク

債券や短期の金融商品を発行している（つまりお金を借りている企業）が、その利払いや元本の支払いを出来なくなることをデフォルトと言います。

保有するCDやCP、公社債などがデフォルトに陥った場合、保有分がゼロになってしまうわけですから、その分だけ基準価額は下がってしまうでしょう。ただ、MMFなどで投資される公社債は非常に格付けの高いものがほとんどです。運用会社によっては、格付け機関からAA相当以上の格付けを取得しているものに限って投資している場合もあります。格付けの高い債券が、数ヶ月でデフォルトすることはまずありません。ですから、MMFが、保有する債券のデフォルトによって元本を割る可能性も非常に低いと考えて良いでしょう。

- (2) 債券の値動きのリスク

一昨年の制度変更、そして昨年始めに会計士協会より発表された、「金融商品会計に関する実務指針」によって、MMFで保有する債券に関する評価に関しても、一部変更が加えられました。その変更内容とは、「残存期間が1年以上の長期の債券に関して、時価評価をするか簿価評価（額面と簿価との差額は均等に毎年償却していく）にするかを選択できる。」というものです。

ただし、簿価評価の場合には、満期まで保有することが前提ですし、途中で売却したくなかったので、時価評価に変更するなんて事は出来ません。満期まで保有する意志があり、また保有する能力もある場合に関してのみ、購入時に、「満期までこの債券を保有します」と宣言した上で、簿価で評価し金利変動のリスクを受けないようにすることが出来るのです。そして一部の運用会社は、これを採用しているようですので、そういった債券に関しては、金利が変動しても、債券価格は変動せず、リスクもないということになります。(デフォルトのリスクが無くなったわけではありません。)